

# Oracle9i Reports

チュートリアル

リリース 9.0.2

2002 年 8 月

部品番号 : J05991-01

ORACLE®

---

Oracle9i Reports チュートリアル, リリース 9.0.2

部品番号: J05991-01

原本名: Oracle9i Reports Tutorial

原本部品番号: A90900-01

原本著者: Vanessa Wang

原本協力者: Darren McBurney

Copyright © 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

# 目次

はじめに .....	iii
<b>1 チュートリアル概要</b>	
1.1 チュートリアルのシナリオ .....	1-2
1.2 まとめ .....	1-5
<b>2 レポートへのデータの追加</b>	
2.1 Web ページのオープン .....	2-2
2.2 データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加 .....	2-3
2.3 JSP ファイルでのレポートの保存 .....	2-9
2.4 まとめ .....	2-9
<b>3 Web レポートのソース・コードの確認</b>	
3.1 Reports Builder での Web ソースの表示 .....	3-2
3.2 JSP コードの検証 .....	3-3
3.3 まとめ .....	3-3
<b>4 Web レポートのレポート・ブロックの作成</b>	
4.1 Web ページへのレポート・ブロックの追加 .....	4-2
4.2 まとめ .....	4-6
<b>5 レポート・ブロックのソース・コードの確認</b>	
5.1 Reports Builder での Web ソースの表示 .....	5-2
5.2 JSP コードの検証 .....	5-3

5.3	まとめ .....	5-3
-----	-----------	-----

## 6 Web レポートのグラフの作成

6.1	Reports Builder でのレポートのソースのオープン .....	6-2
6.2	グラフ・ウィザードを使用したグラフの作成 .....	6-2
6.3	新しいグラフを含むレポートの保存 .....	6-6
6.4	まとめ .....	6-6

## 7 グラフのソース・コードの確認

7.1	Reports Builder でのソースの表示 .....	7-2
7.2	rw:graph タグの確認 .....	7-2
7.3	まとめ .....	7-4

## 8 用紙レポートの出力

8.1	データ・モデルに基づいた用紙レポートの出力 .....	8-2
8.2	まとめ .....	8-5

## A クイック・リファレンス・ガイド

A.1	データ・ウィザードのエントリ .....	A-2
A.2	レポート・ブロックのエントリ .....	A-2
A.3	グラフ・ウィザードのエントリ .....	A-3
A.4	レポート・ウィザードのエントリ .....	A-4

## 用語集

## 索引

---

# はじめに

『Oracle9i Reports チュートリアル』へようこそ。このマニュアルでは、Oracle9i Reports の使用を開始する手順を説明し、Web や紙出力を使用してデータを公開する方法も紹介します。

## 対象読者

このマニュアルは、Oracle Reports を初めて使用するユーザーや、前のバージョンはよく知っているが、Oracle9i Reports の新しい主な機能についてもっと詳しく知りたいというユーザーを対象にしています。

## 前提条件

このチュートリアル例では、Oracle9i データベースと HTML テンプレートで提供される Human Resources（人事管理）のサンプル・スキーマを使用します。Oracle9i Reports では、入力用の SQL が記述されたテキスト・ファイルや、各章で作成する JSP も提供されます。

Oracle Technology Network (<http://otn.oracle.com/products/reports>) からこれらのファイルをダウンロードして、「Getting Started with Oracle9i Reports」をクリックし、インデックスを使用して「Oracle9i Reports Tutorial Sample Files」に移動できます。ファイルは、`d:\¥Reports_Tutorial` などのローカル・ディレクトリにコピーすることをお勧めします。

### サンプル・スキーマ

このチュートリアルは、サンプル・スキーマの Human Resources セクションに含まれるデータに基づいています。このサンプル・スキーマは、Oracle9i データベースで提供されます。

### Web レポートの表示

Web ベースのレポートを作成するには、コンピュータに Web ブラウザがインストールされている必要があります。最小限の推奨条件は、次のとおりです。

- Microsoft Internet Explorer 4.x 以降

または

- Netscape Communicator 4.x 以降

### Web ソースの表示

Reports Builder で JSP レポートの Web ソースを表示できますが、このチュートリアルでは、テキスト・エディタで Web ソースを分析する方法も説明します。メモ帳（Windows NT の場合）や UltraEdit などのテキスト・エディタを使用してください。

# このマニュアルの構成

このマニュアルには、次の章があります。

## 概要

この章では、チュートリアルシナリオと各章の内容について説明します。

## レッスンのための章

これらの章では、レポートの作成手順について説明します。レポート・ウィザード、レポート・ブロックの追加、およびグラフ・ウィザードを使用した手順を示します。これらの機能についてすでにご存知の場合は、付録 A「クイック・リファレンス・ガイド」をご利用ください。

## 出力確認のための章

これらの章では、レッスンのための章で実行したことを確認します。JSP ベースの Web レポートの JSP タグやコードについて説明します。





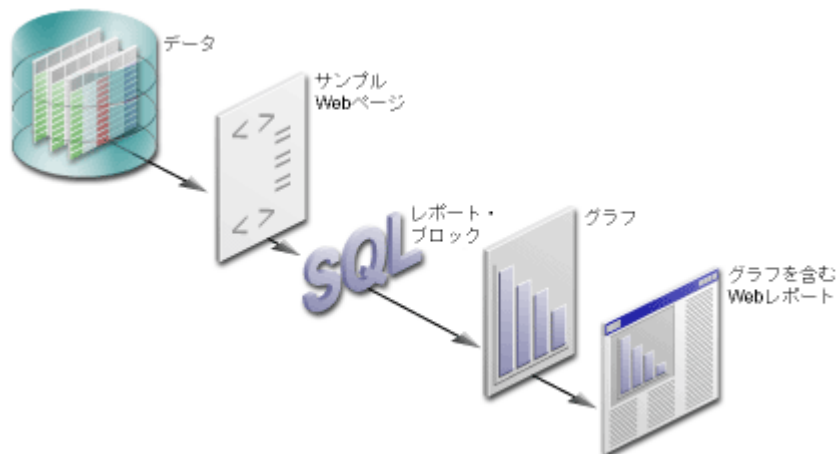
## チュートリアル概要

このチュートリアルでは、ユーザーが **My Company** という会社の開発者であると想定しています。たとえば、あるコンテンツを会社のイントラネットに公開し、各支店の人事管理者がどこからでもそのデータを参照できるようにすることを要請されたとします。この場合、会社のテンプレート（HTML ファイル）を使用して、データが Web 上で見やすくなるようにする必要があります。ただし、人事管理者がレポートを印刷できるようにする必要があります。

このチュートリアルでは、各部門の従業員給与に関して必要な情報を表示する JSP（Java Server Pages）を使用して、Web のレポートを作成します。また、人事管理者がデータの概要を参照できるように、グラフも作成します。チュートリアルの最後では、同じデータ・モデルを使用して、用紙レポートを簡単に出力する方法を説明します。

次の図は、チュートリアルの最初の部分の概要を示します。

図 1-1 チュートリアルの概要：Web レポートの作成

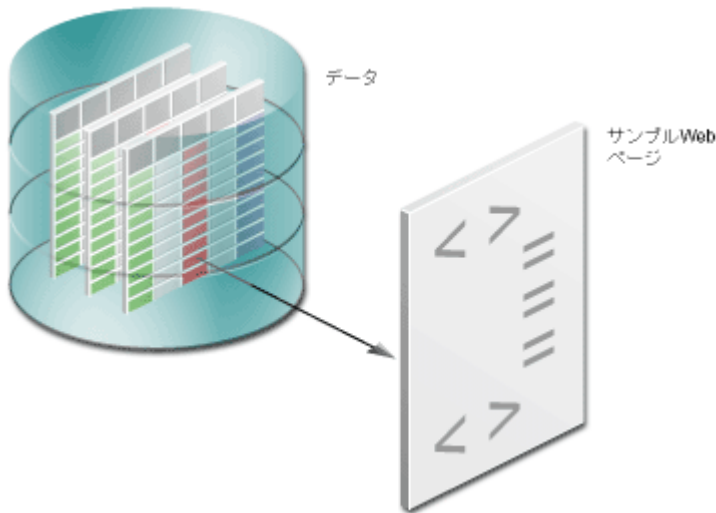


## 1.1 チュートリアルシナリオ

各章の内容は、次のとおりです。

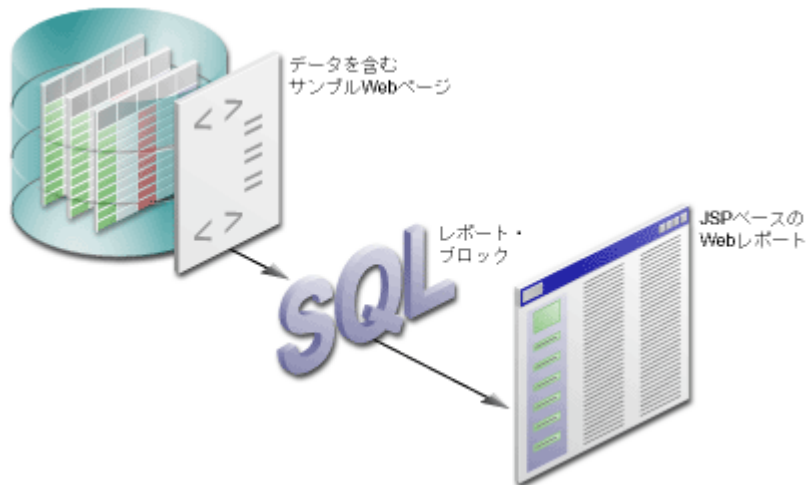
1. 単純な HTML が記述された Web ページ（オラクル社から提供）をオープンし、レポートのデータ・モデルを作成します。このモデルでは、サンプル・データ・ソースからレポートにデータを取り込みます（第2章「レポートへのデータの追加」）。この Web ページには、My Company のルック・アンド・フィールのテンプレートが含まれます。

図 1-2 HTML ページへのデータの追加



2. 第3章「Web レポートのソース・コードの確認」では、作成したレポートを確認して、第2章「レポートへのデータの追加」で実行した内容、およびサンプル Web ページへの追加内容を分析し、サンプル Web ページに対して Reports Builder で行われた内容を理解します。提供されたサンプル Web ページと、作成された JSP ベースの Web ページを比較できます。また、データ・モデルが Reports Bulder でどのように表示され、XML ではどのように表示されるかを確認できます。
3. 第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」では、レポート・ウィザードを使用して JSP にレポート・ブロックを追加し、単純な JSP ベースの Web レポートを Web ブラウザに生成します。

図 1-3 JSP ベースの Web レポート用のレポート・ブロックの作成



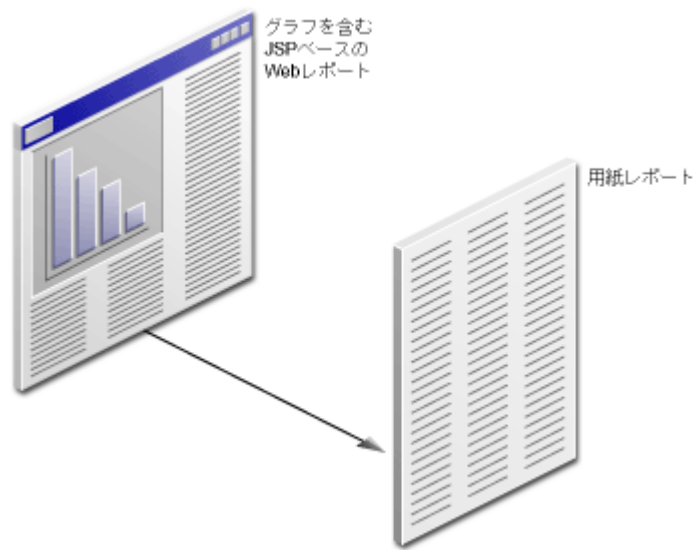
4. 次に、第5章「[レポート・ブロックのソース・コードの確認](#)」では、レポートの Web ソースを分析して、レポート・ブロックがどのように JSP ベースの Web レポートに挿入されたかを確認します。ここでも、XML コードを調べ、ソース・コードがどのように変更されたかを確認できます。
5. 第6章「[Web レポートのグラフの作成](#)」では、グラフ・ウィザードを使用して JSP にグラフを追加し、完全な JSP レポートを Web ブラウザに生成します。

図 1-4 JSP ベースの Web レポートへのグラフの追加



6. 第7章「[グラフのソース・コードの確認](#)」では、グラフを作成する際に Reports Developer で Web ソースに追加された新しいコードを確認します。
7. 最後に、第8章「[用紙レポートの出力](#)」では、JSP ベースの Web レポートで作成したのと同じデータ・モデルとレイアウトを使用して、用紙レポートを出力します。

図 1-5 JSP ベースの Web レポートのデータ・モデルからの用紙レポートの出力



## 1.2 まとめ

このチュートリアルの内容について理解したら、[第2章「レポートへのデータの追加」](#)に進み、データ・ウィザードを使用してレポートのデータ・モデルを作成する方法を学習します。



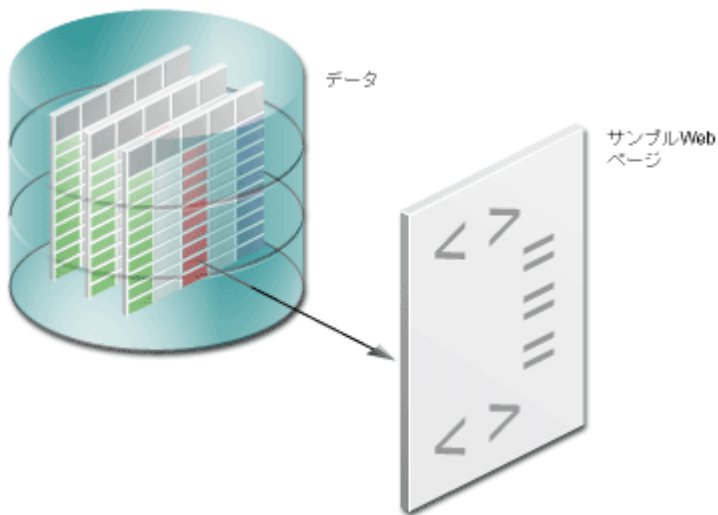
## レポートへのデータの追加

### 予想完了時間：15 分

会社の人事管理者を対象に、部門内の各従業員の給与情報を表示する Web レポートを作成する必要があるとします。この場合、会社のロゴやカラーに対応する HTML ページがすでにあるので、必要な情報を追加するだけです。

この章では、Reports Builder のデータ・ウィザードを使用して、既存の HTML ページにデータを追加する方法を説明します。この章の最後に、Web レポートでデータを使用可能にするデータ・モデルが作成されます。

図 2-1 HTML ページへのデータの追加



## 2.1 Web ページのオープン

この項では、emprev.htm という名前が付いた Web ページ・テンプレート（オラクル社から提供）をオープンする方法を説明します。まず、テンプレートの内容を確認できるように、Web ブラウザでこの Web ページをオープンします。

---

**注意：** このファイルがない場合、「はじめに」にある「[前提条件](#)」を参照してください。

---

### Web ブラウザでサンプル HTML ページをオープンするには

- Web ブラウザ（Netscape または Internet Explorer）で、「ファイル」⇒「開く」を選択し、emprev.htm という名前のサンプル・ファイル（オラクル社から提供）に移動します。

### Reports Builder で既存の HTML ページをオープンするには

1. デスクトップに「Reports Builder」アイコンが用意されている場合は、これをダブルクリックして、Oracle Reports Builder を起動します。

---

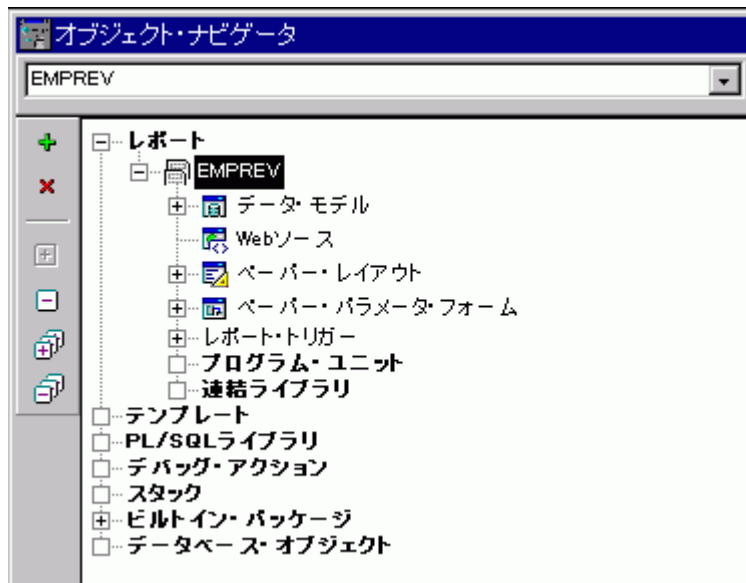
**注意：** UNIX を使用している場合や、このアイコンが表示されていない場合は、Windows の「スタート」メニューから Reports Builder を起動するか、もしくは Reports Builder がインストールされたディレクトリに移動し、runbuilder.bat を実行します。

---

2. 「ようこそ」ダイアログ・ボックスで、「既存レポートを開く」をクリックし、「OK」をクリックします。
  3. 「開く」ダイアログ・ボックスで、チュートリアル・サンプル・ファイルが格納されたフォルダ（d:\¥Reports\_Tutorial など）に移動します。
  4. ファイル emprev.htm を検索し、「開く」をクリックします。
- オブジェクト・ナビゲータに emprev レポートが表示されます。



図 2-2 既存の HTML ページが表示されているオブジェクト・ナビゲータ



## 2.2 データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加

レポートを作成する場合、まず、レポートで使用するデータを選択して、データ・モデルを構築する必要があります。

この項では、データ・ウィザードを使用して、Web レポート用にデータ・モデルを構築する方法を説明します。データ・モデルを作成すると、サンプル・スキーマのデータをレポートで 사용할 ことができます。

### 既存の HTML ページにデータを追加するには

1. データ・ウィザードをオープンして、レイアウトを定義し、データ・モデルを追加します。
  - オブジェクト・ナビゲータで、「データ・モデル」ノードをダブルクリックします。
  - データ・モデル・ビューで、キャンバスを右クリックし、ポップアップ・メニューから「データ・ウィザード」を選択します。
2. 「ようこそ」ページが表示される場合は、「次へ」をクリックします。
3. 「問合せ名」ページで、「次へ」をクリックして、デフォルト名を受け入れます。

4. 「データ・ソース」ページで、「SQL Query」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
5. 「データ」ページで、次のいずれかを実行できます。

---

**注意：** 「データ・ソース」ページで、他のオプション（Oracle9i、XML、JDBC など）も確認します。このページで、レポートに使用するデータ・ソースをすべて選択できます。トランスポータブル・データ・ソースの使用の詳細は、Reports Builder のオンライン・ヘルプまたは『Oracle9i Reports Developer スタート・ガイド』を参照してください。

---

- テキスト・エディタで tutorial\_sql.txt をオープンし、問合せをコピーして、「SQL 文」ボックスに貼り付けます。ステップ 16 に進みます。
  - Query Builder の使用方法について学習するには、ステップ 6 ～ 15 に進みます。
6. Query Builder を使用するには、「Query Builder」をクリックします。

---

**注意：** データベースに接続されていない場合、「接続」ダイアログ・ボックスが表示されます。「接続」ダイアログ・ボックスで、データベースのユーザー名とパスワードを入力します。このチュートリアルでは、Human Resources スキーマを使用します。デフォルトのログインを使用している場合、接続文字列 hr/hr@<database> を使用できます。

提供されたサンプル・スキーマを含むデータベースの接続情報がわからない場合、管理者に連絡してください。

---

7. Query Builder で、EMPLOYEES 表をダブルクリックします。
8. 再び、EMPLOYEES 表をダブルクリックし、「閉じる」をクリックします。

図 2-3 Query Builder に表示されている EMPLOYEES 表

EMPLOYEES	EMPLOYEES A1
<input type="checkbox"/> <b>EMPLOYEE ID</b> 789	<input type="checkbox"/> <b>EMPLOYEE ID</b> 789
<input type="checkbox"/> FIRST NAME A	<input type="checkbox"/> FIRST NAME A
<input type="checkbox"/> LAST NAME A	<input type="checkbox"/> LAST NAME A
<input type="checkbox"/> EMAIL A	<input type="checkbox"/> EMAIL A
<input type="checkbox"/> PHONE NUMBER A	<input type="checkbox"/> PHONE NUMBER A
<input type="checkbox"/> HIRE DATE 31	<input type="checkbox"/> HIRE DATE 31
<input type="checkbox"/> <i>JOB ID</i> A	<input type="checkbox"/> <i>JOB ID</i> A
<input type="checkbox"/> SALARY 789	<input type="checkbox"/> SALARY 789
<input type="checkbox"/> COMMISSION PCT 789	<input type="checkbox"/> COMMISSION PCT 789
<input type="checkbox"/> <i>MANAGER ID</i> 789	<input type="checkbox"/> <i>MANAGER ID</i> 789
<input type="checkbox"/> <i>DEPARTMENT ID</i> 789	<input type="checkbox"/> <i>DEPARTMENT ID</i> 789
<input type="checkbox"/> DN A	<input type="checkbox"/> DN A

Query Builder では、EMPLOYEES 表が EMPLOYEES と EMPLOYEES A1 として表示されます。EMPLOYEES の MANAGER ID と EMPLOYEES A1 の EMPLOYEE ID のリンクは、EMPLOYEES 表の制約によって自動的に作成されます。

---

**注意：** 一部の列名は、イタリックで表記されています。イタリック表記の列名は、主キーまたは外部キーです。

---

9. EMPLOYEES 表で、次のフィールドのチェックボックスを選択します（次の順番どおりにフィールドを選択する必要があります）。
  - EMPLOYEE\_ID
  - FIRST\_NAME
  - LAST\_NAME
  - HIRE\_DATE
  - JOB\_ID
  - SALARY
  - DEPARTMENT\_ID

10. EMPLOYEES A1 表で、次のフィールドのチェックボックスを選択します。

- EMPLOYEE\_ID
- FIRST\_NAME
- LAST\_NAME

11. 「OK」をクリックします。

12. 「SQL Query」テキスト・ボックスに、Query Builder で生成した問合せが表示されます。その内容は次のようになります。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID
      , EMPLOYEES.FIRST_NAME,EMPLOYEES.LAST_NAME
      , EMPLOYEES.HIRE_DATE
      , EMPLOYEES.SALARY
      , EMPLOYEES.JOB_ID
      , EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID
      , EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID
      , EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
```

13. 部門 100 の従業員のみにに対してデータを取り出すには、AND 句を追加します。この場合、問合せは次のようになります（太字は、新しいコードを示します）。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID
      , EMPLOYEES.FIRST_NAME,EMPLOYEES.LAST_NAME
      , EMPLOYEES.HIRE_DATE
      , EMPLOYEES.SALARY
      , EMPLOYEES.JOB_ID
      , EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID
      , EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID
      , EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
AND EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID=100
```

14. ここで、従業員の名前の姓を先に表示し、レポートを見やすくします。

EMPLOYEES.FIRST\_NAME および EMPLOYEES.LAST\_NAME の各フィールドを、emp\_name という 1 つの別名で連結します。

問合せの 2 行目は、次のようになります。

```
, EMPLOYEES.LAST_NAME ||', '|| EMPLOYEES.FIRST_NAME emp_name
```

15. EMPLOYEES\_A1.FIRST\_NAME および EMPLOYEES\_A1.LAST\_NAME の各フィールドを、mgr\_name という 1 つの別名で連結します。

問合せの 7 行目は、次のようになります。

```
, EMPLOYEES_A1.LAST_NAME ||', '|| EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME mgr_name
```

16. 問合せが正しいことを確認します。問合せ全体は、次のようになります。

```
SELECT ALL EMPLOYEES.EMPLOYEE_ID,
       EMPLOYEES.LAST_NAME||', '|| EMPLOYEES.FIRST_NAME emp_name,
       EMPLOYEES.HIRE_DATE, EMPLOYEES.JOB_ID, EMPLOYEES.SALARY,
       EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID, EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID,
       EMPLOYEES_A1.LAST_NAME||', '|| EMPLOYEES_A1.FIRST_NAME mgr_name
FROM EMPLOYEES, EMPLOYEES EMPLOYEES_A1
WHERE (EMPLOYEES.MANAGER_ID = EMPLOYEES_A1.EMPLOYEE_ID)
AND EMPLOYEES.DEPARTMENT_ID = 100
```

---

---

**注意：** 問合せが正しいことを確認するには、提供されたサンプル・ファイルの tutorial\_sql.txt をオープンします。

---

---

17. 「次へ」をクリックします。

18. 生データが選択されたので、これを部門管理者名ごとのグループに編成します。

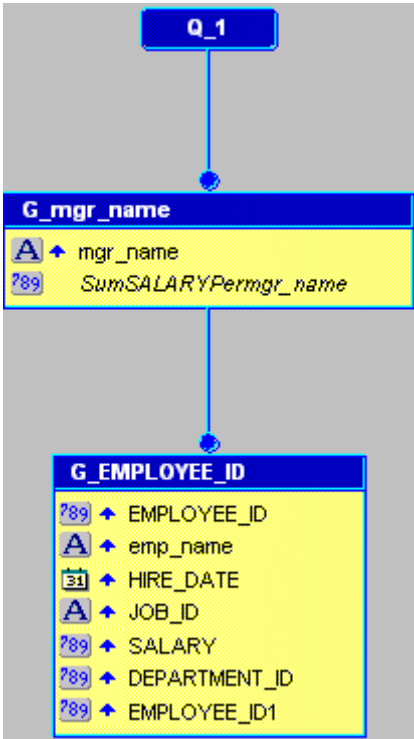
「グループ」ページで、左の列の「MGR\_NAME」フィールドをクリックし、右矢印をクリックして、フィールドを「グループ・フィールド」リストに移動し、「次へ」をクリックします。

19. データの一部を計算します。「合計」ページに、一般的に使用される計算の一部が表示されます。

「合計」ページで、左の列の「SALARY」をクリックし、「合計」をクリックして、「合計」リストの「Salary」列の合計を表示します。

20. 「終了」をクリックします。

図 2-4 レポートのデータ・モデル・ビュー



---

**注意：** データ・モデル・ビューの左上の部分には、Reports レベルのサマリーが表示されます。ただし、この図では示されません。

---

## 2.3 JSP ファイルでのレポートの保存

### JSP でレポートを保存するには

1. オブジェクト・ナビゲータでレポートを選択し、「ファイル」⇒「別名保存」を選択します。
2. 「保存」ダイアログ・ボックスで、レポート名を `emprev_<自分のイニシャル>` に変更し、タイプを「レポート JSP (.jsp)」に変更して、「保存」をクリックします。

---

**注意：** 提供されたファイルを上書きしないように、必ず自分のイニシャルを含めてください。これで、レポートが **JavaServer Page (JSP)** で保存されます。JSP は、Web へのレポート公開に使用する **Reports Builder** の主なテクノロジーなので、レポートを JSP で保存すると、このチュートリアル後の章での使用に備えることができます。

---

3. 「ファイル」⇒「閉じる」を選択します。

## 2.4 まとめ

お疲れ様でした。これでデータ・モデルが作成され、Web ページにレポートを組み込むことができます。この章では、次の手順を学習しました。

- Reports Builder で、既存の Web ページ (HTML ファイル) をオープンする。
- データ・ウィザードで、レポートのデータを指定する。
- Query Builder で、データを選択する。
- レポートを JavaServer Page (JSP) で保存する。

作業を確認するには、[第 3 章「Web レポートのソース・コードの確認」](#)に進みます。あるいは、[第 4 章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」](#)に進み、レポートの作成を続けます。

レポート・ウィザード、列、グループおよびフィールドの使用の詳細は、**Reports Builder** のオンライン・ヘルプを参照してください。また、**JavaServer Pages** の有用性の詳細は、『**Oracle9i Reports Developer スタート・ガイド**』を参照してください。





---

## Web レポートのソース・コードの確認

予想完了時間: 5 分

第 2 章「[レポートへのデータの追加](#)」では、Web ページにデータ・モデルを追加しました。この章では、ウィザードで入力したエントリや作成したデータ・モデル、JSP および XML コードの関連を説明します。

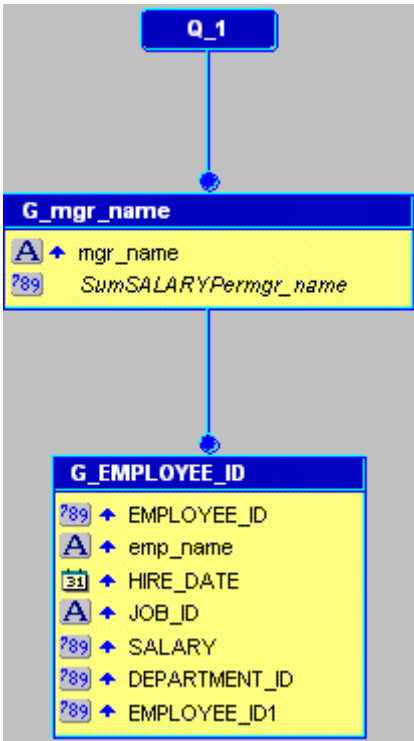
ここでは、Reports Builder で JSP に挿入されたカスタム JSP タグを調べます。このカスタム JSP タグを使用すると、データ・ウィザードで選択したデータを、JSP ベースの Web レポートに追加できます。

### 3.1 Reports Builder での Web ソースの表示

**Reports Builder でレポートの Web ソースを表示するには**

- 1. Reports Builder で、レポート `emprev_<自分のイニシャル>.jsp` がオープンしていることを確認します。
- 2. オブジェクト・ナビゲータで、「データ・モデル」ノードをダブルクリックし、このレポートのデータ・モデルを表示します。データ・モデルが次のように表示されます。

図 3-1 HTML レポートのデータ・モデル



- 3. データ・モデル・ビューで、ツールバーの「Web ソース」アイコンをクリックします。

**注意：** オブジェクト・ナビゲータのレポート名の下にある「Web ソース」アイコンをダブルクリックすることもできます。

Web ソース・ビューにソース・コードが表示されます。このコードをスクロールし、次の内容を確認します。

- @ taglib 行は、rw で始まるすべてのタグのレポート JSP ライブラリを参照します。  
<%...%> タグは JSP 対応タグをマークし、JSP カスタム・タグ・ライブラリを示します。
- 開始の rw:report タグと、開始および終了の rw:objects タグを確認します。
- rw:report タグは、ライブラリ・コールの後に表示されます。レポートでは、すべての Reports Developer JSP タグが開始および終了の rw:report タグの間に表示される必要があります。終了の rw:report タグが、使用するデータの前にあると、レポートは空白になります。
- rw:objects タグは、Web ソースに表示されます。開始および終了タグの間には、テキストがなにも表示されません。ファイル・システムにレポートを保存すると、Reports Builder でデータ・モデルや他の要素が XML 言語にエンコードされ、これらのタグの間にデータ・モデルが配置されます。Reports Builder では、XML の整合性を維持するため、これらのタグ間の XML コードが表示されません。

---



---

**警告：** XML や JSP の使用に慣れているユーザー以外は、このビューのタグ (rw:objects) 間に何も入力しないでください。

---



---

## 3.2 JSP コードの検証

この章を終了し、JSP が正しいことを確認するには、emprev.jsp という名前の提供されたファイルをオープンしてください。このファイルは、作成したチュートリアル・サンプル・ディレクトリにあります。

## 3.3 まとめ

お疲れ様でした。これで、第2章「レポートへのデータの追加」で Web レポートに追加したデータの確認が終わりました。Report Builder の Web ソース・ビューでソース・コードを表示する方法と、次のカスタム JSP タグについて学習しました。

- rw:report
- rw:object

レポート・ブロックを追加し、Web レポートを完成するには、第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」に進みます。

Reports JSP タグの詳細は、Reports Builder のオンライン・ヘルプを参照してください。



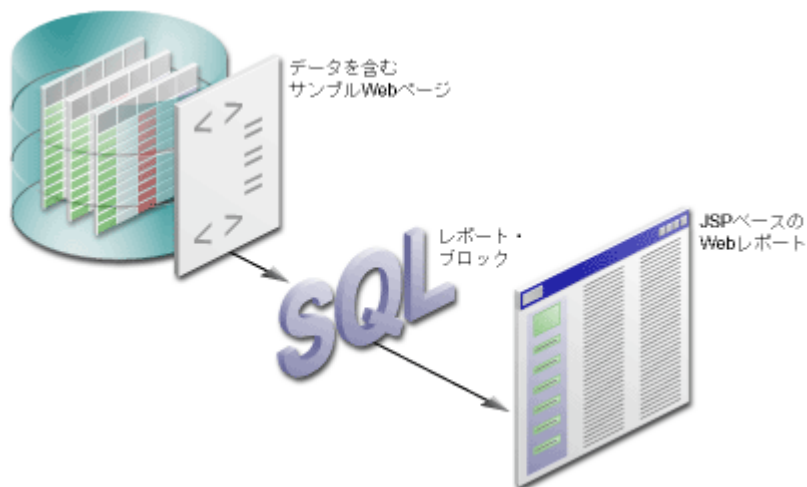
## Web レポートのレポート・ブロックの作成

予想完了時間：15 分

データ・セットを作成したので、レポートにデータをフォーマットし、従業員に関する現在の情報を社内の管理者に提供します。この場合、レポート・ブロックを作成し、それをレポートに追加できます。このレポート・ブロックは、レポートを実行するたびに、第 1 章で指定した問合せを使ってデータを動的に取り込み、レポートにデータをフォーマットします。

この章の手順では、Web ページにレポート・ブロックを追加する方法を説明します。

図 4-1 JSP ベースの Web レポート用のレポート・ブロックの作成



## 4.1 Web ページへのレポート・ブロックの追加

第3章「Web レポートのソース・コードの確認」を完了している場合、Reports Builder ですでにソースをオープンしているはずなので、ステップ1は省略できます。この項では、レポート・ウィザードを使用して、第1章で指定したデータをフォーマットし、そのデータをレポートに動的に取り込む方法を説明します。

### レポート・ブロックを追加するには

1. Reports Builder で、レポート (emprev\_< 自分のイニシャル >.jsp) がオープンしていることを確認します。

---

---

**注意：** 第1章で emprev\_< 自分のイニシャル > を作成していない場合、emprev.jsp という名前の提供された Web ページをオープンしてください。

---

---

2. オブジェクト・ナビゲータで、emprev\_< 自分のイニシャル > にある Web ソースをダブルクリックします。
3. Web ソース・ビューで、「編集」⇒「検索および置換」を選択して、次のテキストを見つけ、削除します（同様の文章はテキスト内に2箇所あり、「置換」を意味します）。

&lt; Replace this text with the report block in Chapter 4 of the tutorial.&gt;

---

---

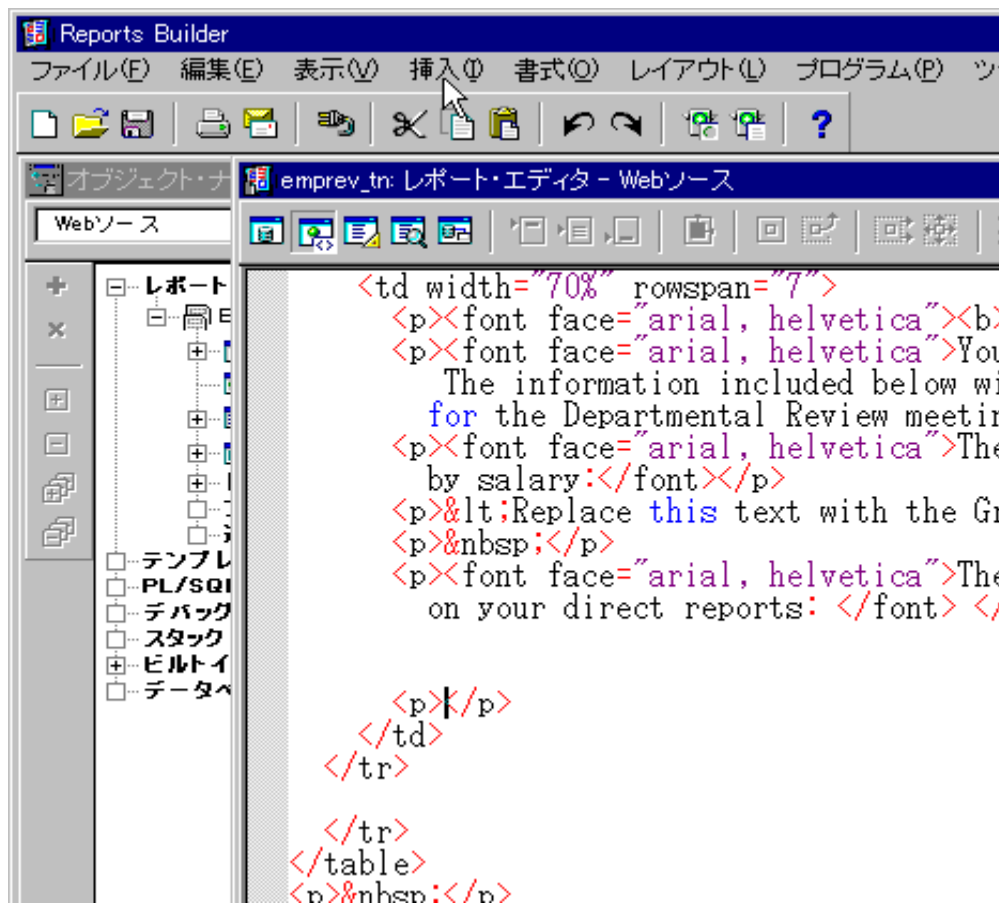
**警告：** HTML の行全体（&lt タグを含む）を削除してください。ソース・コードには、置換するテキストが2箇所あります。第4章で記載するテキストのみを削除してください。この場所にレポート・ブロックを追加します。

---

---

4. カーソルが、テキストを削除した場所にあることを確認し、「挿入」⇒「レポート・ブロック」を選択して、レポート・ウィザードを表示します。

図 4-2 Web ソースへのレポート・ブロックの挿入



5. ウィザードの最初のページで、レポートに「My Team's Salaries」というタイトルを付け、「グループ上」ラジオ・ボタンを選択し、「次へ」をクリックします。
6. データをフォーマットして、従業員名が下の列にリストされるようにします。  
「グループ」ページで、「G\_EMPLOYEE\_ID」をクリックし、「下」をクリックして、「表示グループ」リストにグループを移動します。

---

---

**注意：** 2.2 項「データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加」に記載された正しい順番でフィールドを選択しないと、このグループが表示されないことがあります。この場合、tutorial\_sql.txt から「SQL Query」ボックスに SQL テキストをコピーします。

---

---

7. 「次へ」をクリックします。
8. 「フィールド」ページで、「>>」ボタンをクリックして、すべての使用可能フィールドを「表示フィールド」リストに移動し、「次へ」をクリックします。
9. 「テンプレート」ページで、「事前定義テンプレート」ラジオ・ボタンを選択します。
10. 「Beige」テンプレートを選択し、「完了」をクリックします。

レポート・ウィザードでは、フォーマットしたデータが Web ページで表示されように、カスタム JSP タグを含む HTML が生成されます。
11. 「ファイル」⇒「別名保存」を選択します。
12. 「保存」ダイアログ・ボックスで、名前を `empрева_< 自分のイニシャル >.jsp` に変更し、「保存」をクリックします。
13. ツールバーの「Web レイアウトを実行」アイコンをクリックして、Web ブラウザでレポートを実行し、表示します。レポートは、次のように表示されます。



図 4-3 レポート・ブロックを含む JSP ベースの Web レポート

Department  
Salaries

Employee Details

You are ready to compare Employee salaries. The information included below

The following graph shows your direct reports by salary:

<Replace this text with the Graph in Chapter 6 of the Tutorial.>

The following Report provides salary details on your direct reports:

Employee Id	Emp Name	Hire Date	Job Id	Salary	Depart
109	Daniel,Faviet	94-08-16	FI_ACCOUNT	9000	
110	John,Chen	97-09-28	FI_ACCOUNT	8200	
111	Ismael,Sciarra	97-09-30	FI_ACCOUNT	7700	
113	Luis,Popp	99-12-07	FI_ACCOUNT	6900	
112	Jose Manuel,Ulman	98-03-07	FI_ACCOUNT	7800	

**注意：** Reports Builder で JSP をオープンして、Web に対して実行しても、提供された `emprevj.jsp` ファイルを実行できます。

## 4.2 まとめ

お疲れ様でした。これで、Web レポートにレポート・ブロックが追加されました。この章では、次の手順を学習しました。

- レポート・ブロックの作成
- JSP ベースの Web レポートの HTML ページへのレポート・ブロックの追加

結果を確認するには、[第 5 章「レポート・ブロックのソース・コードの確認」](#)に進みます。あるいは、[第 6 章「Web レポートのグラフの作成」](#)に進み、レポートにグラフを追加します。

---

## レポート・ブロックのソース・コードの確認

予想完了時間: 5 分

第 4 章「[Web レポートのレポート・ブロックの作成](#)」では、JSP ベースの Web レポートにレポート・ブロックを追加しました。この章では、レポート・ブロックに追加するソース・コードについて説明します。

## 5.1 Reports Builder での Web ソースの表示

### Web ソースを表示するには

- オブジェクト・ナビゲータの「Web ソース」ノードをダブルクリックして、[第4章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」](#)で作成したレポート `empрева_< 自身のイニシャル>.jsp` の Web ソースをオープンします。

### 5.1.1 ヘッダー・タグとボディの確認

1. Web ソース・ビューで、`<!--Header-->` 行を見つけます。

この HTML コードはコメント行で、ファイル中のレポート・ヘッダー情報を検索するときに役立ちます。

2. 次のような、`<th>` および `<tr>` タグを見つけます。

```
<tr>
  <th class="OraTotalText"> &nbsp; </th>
  <th class="OraTotalText"> &nbsp; </th>
  <th class="OraTotalText"> &nbsp; </th>
  <th class="OraTotalText"> &nbsp; </th>
  <th <rw:headers id="HFSumSALARYPerReport" src...>
  ...
</tr>
```

### 5.1.2 `rw:foreach` タグとボディの確認

`rw:foreach` タグは、グループ全体でループします。このレイアウトは、指定したグループの各インスタンスで繰り返されます。

1. Web ソース・ビューで、`<rw:foreach>JSP` タグ、および次の行を見つけます。

```
<rw:foreach id="R_G_EMPLOYEE_ID_1" src="G_EMPLOYEE_ID">
```

ここでは、`R_G_EMPLOYEEID` がこのループの一意の識別子で、`G_EMPLOYEE_ID` がループで繰り返すデータ・モデル・グループです。

2. 次に示すように、終了の `</rw:foreach>` タグの後には、表を終了する `</tbody>` タグが続きます。

```
    td <rw:headers id=HFEMPLOYEEID1" src...>
  </tr>
</rw:foreach>
</tbody>
```

## 5.2 JSP コードの検証

この章を終了し、JSP が正しいことを確認するには、`empreva.jsp` という名前の提供されたファイルをオープンしてください。このファイルは、サンプル・ディレクトリにあります。

## 5.3 まとめ

お疲れ様でした。これで、第 4 章「[Web レポートのレポート・ブロックの作成](#)」で追加したレポート・ブロックのソース・コードの確認が終了しました。第 6 章「[Web レポートのグラフの作成](#)」に進み、Web レポートにグラフを追加します。



## Web レポートのグラフの作成

予想完了時間：15 分

この章では、グラフ・ウィザードを使用してグラフを作成し、管理者が従業員の給与を表示できるようにする方法や、特定の部門での各従業員の補償率を示す方法を説明します。

グラフ・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合は、クイック・リファレンス・ガイドとして[付録 A.3「グラフ・ウィザードのエントリ」](#)を参照してください。

図 6-1 JSP ベースの Web レポートへのグラフの追加



## 6.1 Reports Builder でのレポートのソースのオープン

### Reports Builder で Web ソースをオープンするには

1. オブジェクト・ナビゲータで、ファイル `empрева_自分のイニシャル.jsp` がオープンしていることを確認します。

---

---

**注意：** JSP ベースの Web レポートをまだ作成していない場合、`empreve.jsp` という名前の提供されたファイルをオープンします。

---

---

2. オブジェクト・ナビゲータで、レポート名の下に「Web ソース」アイコンをダブルクリックして、Web ソース・ビューでソース・コードを表示します。
3. Web ソース・ビューで、「編集」⇒「検索と置換」をクリックし、次のテキストを見つけて削除します。

&lt; Replace this text with the graph in Chapter 6 of the Tutorial.&gt;

---

---

**警告：** HTML の行全体（& タグを含む）を削除してください。この場所に、グラフの XML タグおよび JSP タグを追加します。

---

---

## 6.2 グラフ・ウィザードを使用したグラフの作成

この項では、グラフ・ウィザードを使用して、グラフの JSP コードおよび XML コードを Web レポートの Web ページに挿入します。手順では、必要なグラフの種類、X 軸および Y 軸の定義を選択する方法を説明します。グラフは、[2.2 項「データ・ウィザードによる、サンプル Web ページへのデータの追加」](#)で作成した問合せに基づきます。

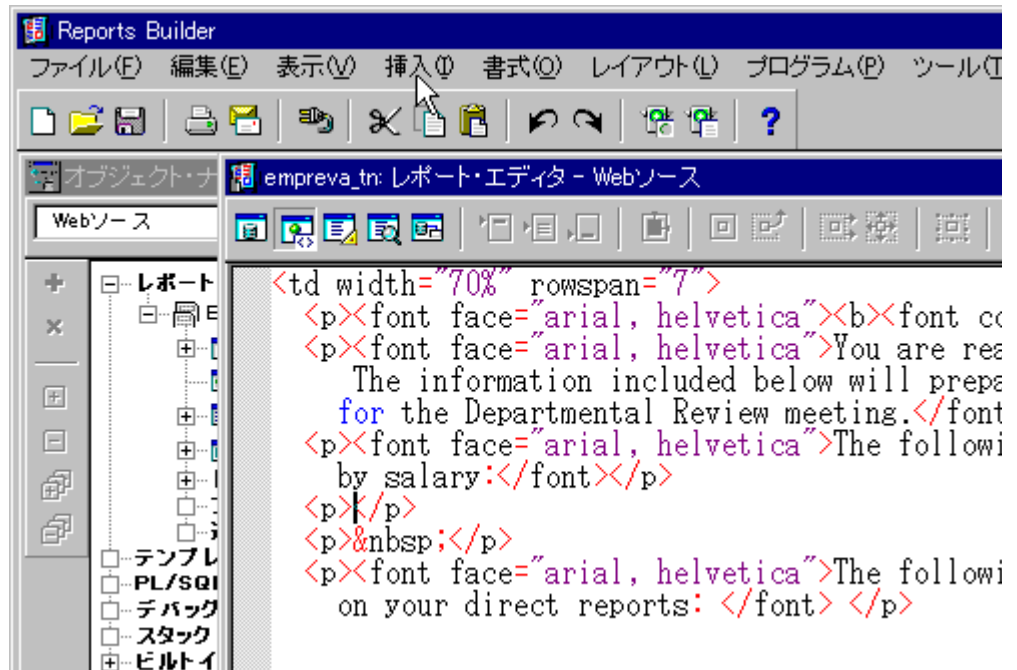
グラフ・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合、グラフ・ウィザードのエントリについては、[付録 A「クイック・リファレンス・ガイド」](#)を参照してください。

### グラフを作成するには

1. カーソルがテキストを削除した場所にあることを確認し、「挿入」⇒「グラフ」を選択して、グラフ・ウィザードを表示します。



図 6-2 Web ソースへのグラフの挿入



2. グラフ・ウィザードの最初のページで、様々なグラフ形式を選択できます。単純なレポートとして、棒グラフを選択します。  
 グラフ・ウィザードで、デフォルトのグラフ・タイプ（棒グラフ）が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
3. **EMPLOYEE\_ID** を「X 軸項目」リストに移動し、「次へ」をクリックします。
4. **SALARY** を「Y 軸データ」リストに移動し、「次へ」をクリックします。
5. 「レイアウト」ページで、**EMPLOYEE\_ID** を「グループ欄」から「棒」欄にドラッグ & ドロップし、「次へ」をクリックします。
6. 「グラフ・タイトル」ページで、「タイトルの表示」を選択し、最初のテキスト・ボックスで「従業員の給料」と入力して、「次へ」をクリックします。
7. 「説明の表示」が選択されていることを確認します。
8. 「位置」リストから、「右」を選択し、「次へ」をクリックします。
9. 「X 軸タイトルの表示」フィールドで、「従業員」と入力し、「次へ」をクリックします。

---

---

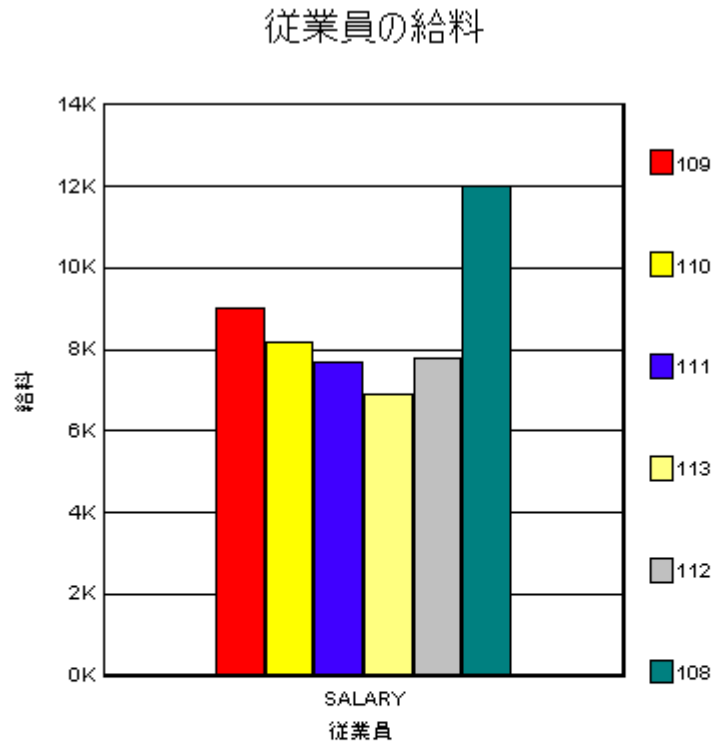
**注意：**「X 軸タイトルの表示」は、フィールドにテキストを入力すると自動的に選択されます。

---

---

10. 「Y1 軸タイトルの表示」フィールドで、「給料」と入力し、「次へ」をクリックします。
11. 「「行 1」の色」をクリックし、別のカラーを選択します。  
必要に応じて、他の行のカラーも選択します。
12. 「終了」をクリックします。
13. ツールバーの「Web レイアウトを実行」アイコンをクリックして、Web ブラウザでレポートをプレビューします。  
レポートは、次のように表示されます。

図 6-3 グラフを含む JSP ベースの Web レポート



The following Report provides salary details on your direct reports:

Employee Id	Emp Name	Hire Date	Job Id	Salary	Department Id
109	DanielFaviet	94-08-16	FI_ACCOUNT	9000	100
110	John Chen	97-09-28	FI_ACCOUNT	8200	100
111	IsmaelSciarra	97-09-30	FI_ACCOUNT	7700	100

## 6.3 新しいグラフを含むレポートの保存

別のファイル名でレポートを保存すると、チュートリアル用に提供したレポートと結果を比較できます。これにより、必要に応じて、前の章の結果に戻ることもできます。

1. 「ファイル」⇒「別名保存」を選択します。
2. 「保存」ダイアログ・ボックスで、名前を `emprevb_<自分のイニシャル>.jsp` に変更し、「保存」をクリックします。

## 6.4 まとめ

お疲れ様でした。JSP ベースの Web レポートにグラフが追加されました。この章では、次の手順を学習しました。

- グラフ・ウィザードで、グラフを設計し、Web レポートに追加する。

結果を確認するには、[第7章「グラフのソース・コードの確認」](#)に進みます。

---

## グラフのソース・コードの確認

予想完了時間: 5 分

第 6 章「[Web レポートのグラフの作成](#)」では、JSP ベースの Web レポートにグラフを追加しました。この章では、グラフに追加するソース・コードについて説明します。

## 7.1 Reports Builder でのソースの表示

第 6 章「Web レポートのグラフの作成」で作成したレポート `emprevb_< 自分のイニシャル >.jsp` の Web ソース・ビューをオープンします。

## 7.2 `rw:graph` タグの確認

`rw:graph` タグはグラフ情報を囲み、グラフをデータ・ソースにリンクします。また、このタグはカテゴリやデータ・フィールドも識別します。

1. Web ソース・ビューで、`<rw:graph>`JSP タグを見つけます。

`rw:graph` タグ内のコードは XML です。

2. 次のような `"O1"` で始まる行を見つけます。

```
<O1Axis lineWidth="1"/>
<O1MajorTick lineWidth="1"/>
...
```

これらの行は、X 軸に関する属性を定義します。

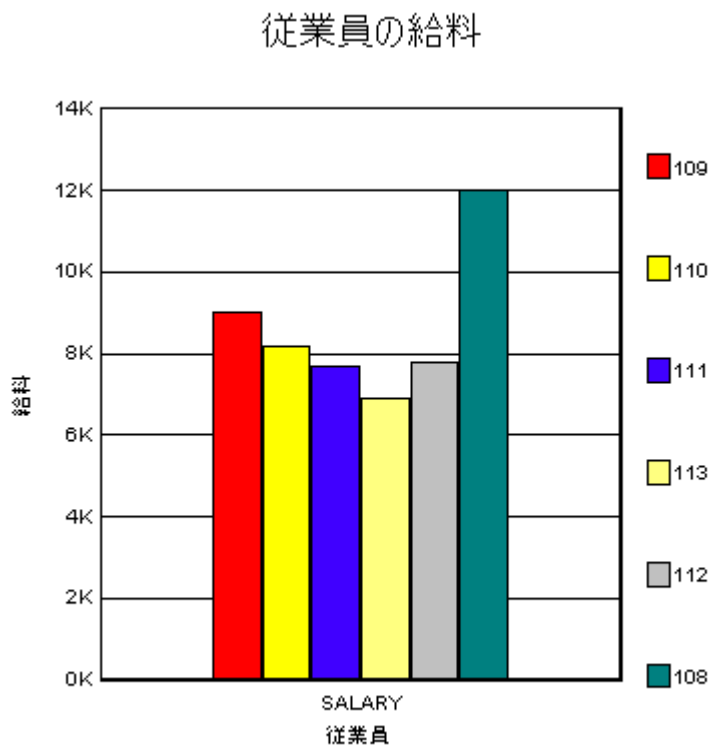
3. 次のような `<SeriesItems>` タグを見つけます。

```
<SeriesItems>
<Series id="0" color="#ff3300"/>
<Series id="1" markerShape="MS_SQUARE"/>
<Series id="2" markerShape="MS_SQUARE"/>
...
</SeriesItems>
```

このタグは、X 軸沿いの値の属性を定義します。

4. ここで、カラー値 `FF3300` が X 軸上にある最初の棒に適用されることがわかります。

図 7-1 X 軸上で色分けされているグラフ

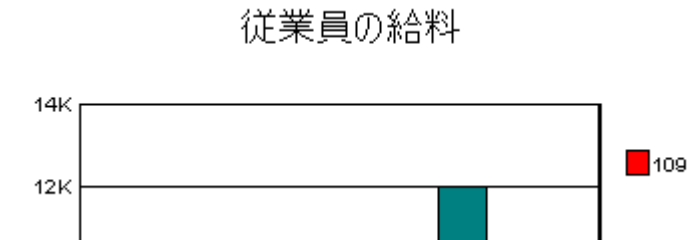


5. 次のような <Title> タグを見つけます。

```
</SeriesItems>
<Title text="Employee by Salary"...>
```

このタグは、次のように、Web レポートにグラフ・タイトルを追加します。

図 7-2 タイトルがあるグラフ



6. 次のような `</rw:graph>` JSP タグを見つけます。

```
</Graph>

-->
</rwgraph>
  <p>&nbsp;</p>
...
```

グラフを作成する XML は、終了の `</rw:graph>`JSP タグの前に終了します。

**注意：** グラフ・ウィザードはリエントラントです。そのため、グラフを変更する場合は、`rw:graph` タグ間の XML にカーソルを移動し、「編集」⇒「選択」を選択できます。グラフ・ウィザードは、第 6 章で選択したオプションとともに表示されます。

7.3 まとめ

お疲れ様でした。新しいグラフのソース・コードの確認が終了し、『Oracle9i Reports チュートリアル』を完了しました。Web レポートの作成、レポート・ブロックやデータの追加、およびグラフの作成の詳細は、Reports Builder のオンライン・ヘルプを参照してください。



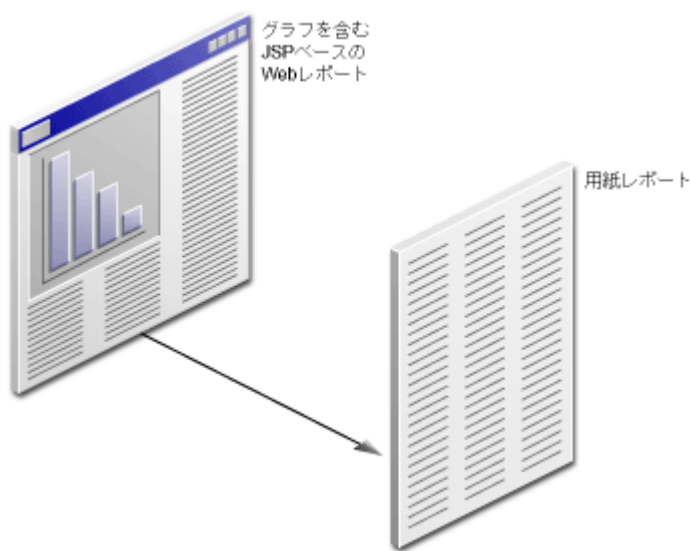
## 用紙レポートの出力

予想完了時間 :15 分

この章では、作成したばかりの Web レポートを作成する方法を説明します。ここでは、レポート・ウィザードを使用して、[第 2 章「レポートへのデータの追加」](#)で作成したデータ・モデルでペーパー・レイアウトを作成します。

レポート・ウィザードの使用方法をすでにご存知の場合は、クイック・リファレンス・ガイドとして、[付録 A.4「レポート・ウィザードのエントリ」](#)を参照してください。

図 8-1 JSP ベースの Web レポートのデータ・モデルからの用紙レポートの出力



## 8.1 データ・モデルに基づいた用紙レポートの出力

この項では、第2章「レポートへのデータの追加」で作成したデータ・モデルに基づいて、ペーパー・レイアウトを出力する方法を説明します。

---

---

**注意：** 使用していた同一のデータベースに接続し、Human Resources スキーマにアクセスする必要があります。データベースの接続情報がわからない場合は、データベース管理者に連絡してください。

---

---

### 用紙レポートを出力するには：レポート・ウィザードの使用：

1. オブジェクト・ナビゲータで、第6章「Web レポートのグラフの作成」で作成したレポート `emprevb_<自分のイニシャル>.jsp` の Web ソース・ビューがオープンしていることを確認します。

---

---

**注意：** JSP ベースの Web レポートを最初に作成しないで、JSP ベースの Web レポートのペーパー・レイアウトの出力方法のみを学習したい場合は、提供されたファイル `emprevb.jsp` をオープンします。

---

---

2. オブジェクト・ナビゲータで、レポート名を右クリックします。
3. ポップアップ・メニューから、「レポート・ウィザード」を選択します。
4. ここでは、用紙レポートを出力するため、ペーパー・レイアウトを選択します。第3章ですでに終了しているので、Web レイアウトを選択する必要はありません。

レポート・ウィザードの「レポート・タイプ」ページで、「ペーパー・レイアウトのみ作成」ラジオ・ボタンを選択します。

5. 「スタイル」ページで、「グループ上」ラジオ・ボタンを選択します。
6. 「データ」タブをクリックします。

第2章「レポートへのデータの追加」で作成したデータ・モデルが、「SQL Query」テキスト・ボックスに表示されます。

7. 「フィールド」ページで、フィールドを選択し、右矢印をクリックして、次のフィールドを「表示フィールド」リストに移動します。

- emp\_name
- mgr\_name
- SumSALARYPerReport1
- SumSALARYPermgr\_name1
- SALARY

8. 「合計」 ページの左側のリストで、「SALARY」をクリックし、「合計」をクリックします。
9. 「ラベル」 ページの mgr\_name フィールドの「ラベル」 フィールドで、「マネージャ名」と入力します。
10. emp\_name フィールドの「ラベル」 フィールドで、「従業員名」と入力します。必要に応じて、他のラベル名を更新します。
11. 「テンプレート」 ページで、「Beige」 ラジオ・ ボタンを選択して、テンプレートを選択します。
12. 「終了」 をクリックします。  
レポートが、次のようにペーパー・デザイン・ビューに表示されます。

図 8-2 最終的な用紙レポート

YOUR *Inc.*  
COMPANY

私のチームの給料

マネージャ名Cambrault,Gerald

従業員名	給料
Ozer,Lisa	11500
Bloom,Harrison	10000
Smith,William	7400
Kumar,Sundita	6100
Bates,Elizabeth	7300
Fox,Tayler	9600
合計:	51900

マネージャ名De Haan,Lex

従業員名	給料
Hunold,Alexander	9000
合計:	9000

マネージャ名Errazuriz,Alberto

従業員名	給料
Greene,Danielle	9500
Banda,Amit	6200
Marvins,Mattea	7200
Ande,Sundar	6400
Lee,David	6800
Vishney,Clara	10500
合計:	46600

- 13. 「ファイル」⇒「別名保存」を選択します。
- 14. 名前を emprev\_paper\_< 自分のイニシャル>.rdf に変更し、"rdf" が選択されていることを確認します。
- 15. 「保存」をクリックします。

## 8.2 まとめ

お疲れ様でした。これで、JSP ベースの Web レポートで作成したデータ・モデルに基づいて、用紙レポートを出力しました。この章では、次の手順を学習しました。

- 既存の JSP ベースの Web レポートでレポート・ウィザードをオープンする。
- レポートにペーパー・レイアウトを作成する。
- Web レポートを作成する。

既存のデータ・モデルに基づいた用紙レポートの出力の詳細は、Reports Builder のオンライン・ヘルプを参照してください。



---

# クイック・リファレンス・ガイド

この付録には、**Reports Builder** の各ウィザードで入力するエントリを示す表が記載されています。これらの表は、クイック・リファレンス・ガイドとして作成され、今後の使用時や、**Oracle Reports Builder** の各ウィザードをすでによく理解している場合に利用できます。

## A.1 データ・ウィザードのエントリ

次の表は、第 2 章「レポートへのデータの追加」でデータ・ウィザードに作成するエントリを示します。

表 A-1 データ・ウィザードの入力

データ・ウィザードのページ	フィールド	入力
問合せ	名前	Employee Salaries
データ・ソース	SQL Query	
データ	SQL 問合せ文	次のファイルから SQL を貼り付ける。 < サンプル・ファイル >/tutorial_sql.txt
	接続	DBA から接続文字列を取得する
グループ	グループ・フィールド	MGR_NAME
合計	「合計」フィールド	Sum (SALARY)

## A.2 レポート・ブロックのエントリ

次の表は、第 4 章「Web レポートのレポート・ブロックの作成」でのレポート・ブロックのエントリを示します。

表 A-2 レポート・ブロックのレポート・ウィザードの入力

レポート・ブロック・ウィザードのページ	フィールド	入力
タイトル	タイトル	Direct Reports by Manager
データ・ソース	グループ上	選択
グループ	使用可能グループ	G_EMPLOYEE_ID, DOWN
表示フィールド	使用可能フィールド	すべてのフィールド (すべてのフィールドを「表示」に移動する)
合計		なし
テンプレート	事前定義テンプレート	Beige



## A.3 グラフ・ウィザードのエントリ

次の表は、第 6 章「Web レポートのグラフの作成」でグラフ・ウィザードに作成するエントリを示します。

表 A-3 グラフ・ウィザードの入力

グラフ・ウィザードのページ	フィールド	入力
データ・ソース	データ・ソース	縦棒グラフ
位置	位置	レポートの最初
X 軸項目	使用可能な列	EMPLOYEE_ID および MGR_NAME を「X 軸項目」に移動する
Y 軸データ	使用可能な列	SALARY を「Y 軸データ」に移動する
タイトル	タイトルの表示	ボックスをチェックし、「Salary Comparison」と入力する
凡例	説明の表示	選択解除
X 軸	X 軸タイトルの表示	ボックスをチェックし、「Employees」と入力する
Y 軸	Y 軸タイトルの表示	ボックスをチェックし、「Salaries」と入力する
凡例オプション	「行 1」の色	別のカラーを選択する

## A.4 レポート・ウィザードのエントリ

次の表は、第 8 章「用紙レポートの出力」でのレポート・ウィザードのエントリを示します。

表 A-4 レポート・ブロックのレポート・ウィザードの入力

レポート・ウィザードのページ	フィールド	入力
レイアウト	ペーパー・レイアウトのみ作成	選択
データ・ソース	グループ上	選択
グループ	使用可能グループ	(変更しない)
表示フィールド	使用可能フィールド	emp_name mgr_name SumSALARYPerReport1 SumSALARYPermgr_name1 SALARY
合計		Salary、Sum
ラベル	すべてのラベル	ラベルを適切な値に変更する
テンプレート	事前定義テンプレート	Beige

---

# 用語集

## HTML (Hypertext Markup Language: ハイパーテキスト・マークアップ言語)

Hypertext Markup Language の略称。インターネット上の Web サーバーの他のドキュメントに対するコンテンツとリンクを指定するのに使用される、タグ・ベースの ASCII 言語。エンド・ユーザーは、Web ブラウザで HTML ドキュメントを表示し、リンクに従って他のドキュメントを表示する。

## Java

コンピュータ言語。インターネット用のプログラムは、プラットフォーム独自の「アプレット」の形でサポートする。

## JSP (JavaServer Page)

Web ページへの単純なプログラム・インタフェースを可能にするサーブレットの拡張機能。JSP は、特殊タグを含む HTML ページおよび埋込みの Java コードで、Web またはアプリケーション・サーバーで実行され、HTML ページに動的機能を提供する。最初に要求され、サーバーの JVM で実行されるときに、JSP は、実際にサーブレットにコンパイルされる。

## Oracle9i Application Server

Oracle9i Application Server (Oracle9iAS) は、ネットワーク・アプリケーションの利用における戦略的なプラットフォームである。アプリケーション論理をアプリケーション・サーバーに移動し、ネットワーク・クライアントを実行することにより、組織は、複雑さの改善、操作性の向上および開発と実行の簡便性の向上を通して、実質的な利益を得られる。Oracle9iAS は、データベースの Web 配布の簡便化、および従来のクライアント・サーバーから、ネットワーク・アプリケーション・アーキテクチャへの移行を通じてのレガシーの完全統合を実現する、ビジネスにおいては非常に重要なプラットフォームである。

## Oracle9i Developer Suite

Oracle9i Developer Suite (Oracle9iDS) は、最新の Oracle アプリケーション開発ツールとビジネス・インテリジェンス・ツールを単一に組み込んだ、統合製品である。Java や XML などのインターネット標準に基づき、この製品は、Oracle9i Application Server および Oracle9i Database 向けのアプリケーション構築に、生産性の高い開発環境を提供する。

## <Oracle\_Home>

一部のディレクトリ・ベースのオペレーティング・システムにおける、Oracle のディレクトリ階層の最上層の別名。Oracle 製品のルート・ディレクトリを示す環境変数。

## Oracle9iAS Portal

Oracle9iAS Portal は、HTML ベースの開発ツールで、スケーラブルでセキュアかつ拡張可能な HTML アプリケーションや Web サイトの構築に使用する。Oracle9iAS Reports Services では、Oracle9iAS Portal を使用して、レポート要求、セキュア・サーバー、およびレポート出力の印刷に使用する Oracle9iAS Reports Services プリンタに関する情報を格納し、Web 上に公開されたレポートへのエンド・ユーザー・アクセスを制御する。

## Oracle9iAS Reports Services

Reports Developer アプリケーションのランタイム環境。Oracle9iAS Reports Services では、レポートを実行、配布および公開して、企業全体で統一されたレポートを作成する。Reports Services を使用してレポートを配布すると、柔軟性の向上、時間短縮および処理容量の増大につながる。

## Oracle9iAS Reports Servlet

Java ベースの Web サーバーと Oracle9iAS Reports Runtime 間のインタフェース。これにより、Web ブラウザからレポートを動的に実行できる。

## Oracle9iAS Reports Builder (rwbuilder)

レポート定義を作成、開発、維持する。

## PDF (Portable Document Format: ポータブル・ドキュメント形式)

ドキュメントの作成に使用された元のアプリケーション・ソフトウェア、ハードウェアおよびオペレーティング・システムに依存せずにドキュメントを表現する (Adobe Acrobat に固有の) ファイル形式。PDF ファイルは、テキスト、グラフィックおよびイメージのあらゆる組合せが入ったドキュメントを、デバイスや解像度から独立した形式で表現できる。

## PL/SQL

SQL 言語に対する Oracle 専用の拡張。SQL に対しアプリケーションの記述に適するようにプロシージャ型構成体やその他の構成体を追加している。

## RDF ファイル (RDF file)

バイナリ形式の単一のレポート定義を含むファイル。.RDF ファイルは、レポートの実行と編集の両方に使用される。

## SELECT 文 (SELECT statement)

1 つ以上の表またはビューから、どの行と列をフェッチするかを指定する SQL 文。

## **SQL**

リレーショナル・データベースにおける情報の格納と検索のための標準インタフェース。SQL は、Structured Query Language（構造化問合せ言語）の略称。

### **SQL スクリプト (SQL script)**

データベース管理を素早く簡単に行う SQL 文を含むファイル。SQL スクリプトの一部は、Oracle 製品に付属している。

### **SQL ファイル (SQL file)**

テキスト形式（ASCII や EBCDIC など）で格納された問合せを含むファイル。

### **SQL 文 (SQL statement)**

Oracle に対する SQL の指示。SELECT 文は、SQL 文の一種。

### **URL (Uniform Resource Locator)**

URI の形式である URL は、インターネット上で有効なリソースの位置を表す簡潔な文字列表記である。また、これは Oracle9iAS への要求をエンコードするためにクライアントで使用するテキスト文字列の形式でもある。

### **Web サーバー (Web server)**

リモート Web ブラウザの HTTP 要求に回答して Web ページを送信する、Web サイトで稼働しているサーバー・プロセス (HTTP デモン)。

### **Web ソース・ビュー (Web source view)**

レポートの HTML/JSP ソースを表示する。このビューを使用して、レポート・ブロック・ウィザードやグラフ・ウィザードで、Web ページに動的コンテンツを追加できる。経験を積んだ Java 開発者は、このビューで直接 Web ソースを編集できる。

### **Web ブラウザ (Web browser)**

エンド・ユーザーが (Web サーバーによりサービスされる) コンピュータ上に保管されている HTML ドキュメントおよびプログラムを読むために利用するプログラム。

## **XML**

Extensible Markup Language。SGML を使用して、データを定義および構築するメタ言語。Reports Builder は、XML 出力をサポートして、Web 公開、およびサードパーティーのアプリケーションとの電子データ交換を可能にする。また、XML を使用して、実行時に他のレポート定義とマージすることができるレポート定義を作成することも、別々に実行するレポート定義を作成することもできる。

### **アイコン (icon)**

ウィンドウやツールのグラフィック表示。

### イメージ (image)

アプリケーションに格納およびロードできるビットマップ・オブジェクト。クライアントは、インポートされたイメージを変更できない。

### イントラネット (intranet)

内部的な TCP/IP ネットワークで、これに対するアクセスは（ファイアウォールにより）企業や組織内の人物に制限されている。イントラネットは、

インターネットで提供されるサービスと類似したものを組織内に提供するが、インターネットに接続される必要は必ずしもない。企業内で情報やアプリケーションの配布のため、内部ネットワーク上に 1 つ以上の Web サーバーを設定するのはイントラネットの一般的な例である。

### ウィザード (wizards)

簡単なステップごとのインタフェースを共通の実行タスクで提供する。Reports Builder のウィザードは次のとおり。

- レポート・ウィザード: 基本的な用紙レポートや Web レポートを作成するときの手順を示す。ウィザードの各ページでは、初期レポート作成に使用する情報を入力する。
- データ・ウィザード: 多重問合せデータ・モデルの問合せを簡単に定義または変更できる。
- グラフ・ウィザード: 実際の 3D グラフなど、各種のチャートやグラフを追加する。Oracle BI graph bean により、Reports Builder に実装される。
- レポート・ブロック・ウィザード: スタティック HTML ページにデータを追加できる。

### ウィンドウ (window)

アプリケーションが実行される、デスクトップの四角形の領域。各ウィンドウには、アプリケーションと対話できる領域がある。ウィンドウは、オープン、サイズの変更、移動、アイコンへの縮小、デスクトップ全体への拡張ができる。

### エディタ (editor)

プログラム単位の作成やアプリケーションの設計など、一連の特定のタスクを実行する作業領域。

## オブジェクト (object)

1. レイアウト上に配置できる項目。オブジェクトの例は次のとおり。四角形、線、楕円、円弧、多角形、折れ線、丸い四角形、手書き、グラフ、テキスト、記号、テキスト・フィールド。
2. Oracle8 では、オブジェクト・タイプのインスタンス。オブジェクトは、オブジェクト表内の行であることも、リレーショナル表内の列オブジェクトに含まれる行の一部であることもある。

## 構文 (syntax)

コマンド、修飾子およびパラメータが組み合されて有効なコマンド文字列を形成する、規則的なシステム。

## スタイル・シート (style sheet)

HTML ドキュメントで、より柔軟なフォーマットを提供する HTML の拡張機能。スタイル・シートを利用する HTML ドキュメントを表示するには、スタイル・シートをサポートするブラウザで表示する。

## ダイアログ・ボックス (dialog box)

操作を完了するために必要な情報の入力を求める、部分的な画面またはウィンドウ。

## チェックボックス (checkbox)

小さな四角形で表示されるインタフェース要素。ユーザーは、チェックボックスをオンまたはオフに切り替えることができる。

## ツールバー (toolbar)

製品コマンドを実行するアイコン・ボタンの集合。通常、ウィンドウの一番上に沿って水平に並んでいるか、横に垂直に並んでいる。

## ツール・パレット (tool palette)

ツールの集合。

## データ・ソース (data source)

問合せで返すデータのソース。たとえば、表、ビュー、シノニム、スナップショット、およびビューとして格納される問合せなどのデータベース・オブジェクト。

## データベース (database)

1. ユニットとして扱われる、1 組のディクショナリ表とユーザー表。
2. (Oracle Express) データを編成、格納および操作するオブジェクトを含む単一のファイル (拡張ファイルが付属する場合もあり)。Express では、このようなオブジェクトの例として、変数、ディメンション、式、モデルおよびプログラムがある。

## データ・モデル (data model)

データベースからどの値をフェッチするか、どの値を計算するか、データをレポート内でどのように順序付けるかを定義するリレーショナル・モデル。データ・モデルを定義する Reports Builder オブジェクトは、問合せ、グループ、列、パラメータ、リンクである。

## データ・モデル・ビュー (Data Model view)

レポートのデータを構造的に表示する。このオブジェクトは、レポート出力に表示されないが、構造体でレイアウト・スタイルが決定され、データ・オブジェクトはレイアウト・オブジェクトに表示される値を提供する。

## テンプレート (template)

列スタイルおよび標準を含む骨格となる定義で、グラフィックを含むこともある。テンプレートは、洗練されたルック・アンド・フィールを備えたレポートを簡単かつ短時間で開発可能にする標準形式を提供する。

## 問合せ (query)

データベースの 1 つ以上の表またはビューから検索するデータを指定する、SQL SELECT 文。

## 表 (table)

リレーショナル・データベースまたはサーバーで行と列から構成される 2 次元の格子に格納される、関連する情報の名前付き集合。

## 表形式 (tabular)

ページの最上部にラベルを表示し、ラベルの下にデータ行を表示するデフォルト・レイアウト。

## フィールド (field)

1. その中でデータの入力、編集および削除が可能なインタフェース要素。
2. 特定の問合せ列のデータがどのように表示されるかを定義するレイアウト・オブジェクト。

## ペーパー・デザイン・ビュー (Paper Design view)

用紙レポートの出力を表示し、ペーパー・レイアウト・ビューをオープンしなくても、間隔、フィールドのフォーマット、カラー、テキスト編集など、レイアウトで一般的に必要なとされる単純な変更の多くを実行可能にする。

## ペーパー・レイアウト・ビュー (Paper Layout view)

用紙レポートのレイアウト・オブジェクトを表示し、レイアウト・オブジェクトを変更できるようにする。レイアウト・オブジェクトはすべて、プロパティ・インスペクタを使用して変更できるプロパティである。レイアウト・オブジェクトの階層は、データ・モデルで決定される。



## レイアウト (layout)

オブジェクトの作成、変更、位置付けまたは削除ができるエディタ領域。

## 列 (column)

1. データの特定のドメインを表す、データベース表内の垂直方向の領域。列には列名 (ENAME など) があり、特定のデータ型 (CHAR など) を持っている。たとえば、従業員情報の表で従業員名のすべてが 1 つの列を構成するなど。レコード・グループ列は、データベースの列を意味する。
2. 問合せの SELECT リスト内の列のそれぞれの式に対し自動的に作成されるか、集計や式を実行したりプレースホルダとして稼働するために手動で作成されるデータ・モデル・オブジェクト。



---

# 索引

## H

---

### HTML

Reports Builder での Web ページのオープン, 2-2  
Web ソースの確認, 3-1

## J

---

### JavaServer Page, 6-6

保存, 2-9

### JSP

JSP レポートの保存, 2-9  
グラフの追加, 6-1  
保存, 6-6

## Q

---

### Query Builder

使用, 2-4

## R

---

### Reports JSP タグ

rw

foreach タグ, 5-2  
graph タグ, 7-2  
seriesitem, 7-2  
ヘッダー・タグ, 5-2

rw

foreach タグ  
確認, 5-2  
graph タグ  
確認, 7-2

## S

---

### seriesitem タグ

確認, 7-2

## W

---

### Web ソース

確認, 3-1  
グラフの確認, 7-1  
レポート・ブロックの確認, 5-1

### Web ページ

Reports Builder でのオープン, 2-2

## か

---

### グラフ

JSP への追加, 6-1  
Web ソースの確認, 7-1  
グラフ・ウィザード  
使用, 6-2

## さ

---

シナリオ, 1-2

## た

---

チュートリアル・シナリオ, 1-2

### データ

Web レポートへの追加, 2-3  
レポートへの追加, 2-1  
データ・ウィザード  
使用, 2-3  
データ・モデル

- Web ソース・コードの確認, 3-1
- Web ソースの確認, 3-1
- Web レポートおよび用紙レポートでの使用, 8-1
- 構築, 2-3
- 作成, 2-1, 2-3
- ソース・コードの確認, 3-1
- レポート・ウィザードの使用, 2-3
- 問合せ
  - 作成, 2-4

## は

---

- ヘッダー・タグ
  - 確認, 5-2
- 保存, 6-6
  - JSP ベースの Web レポート
    - 保存, 6-6

## や

---

- 用紙レポート
  - 作成, 8-1

## ら

---

- レポート
  - JSP で保存, 2-9
  - 用紙レポートの作成, 8-1
- レポート・ウィザード
  - 使用, 2-3, 8-2
  - レポート・ブロックの追加, 4-1
- レポート・ブロック
  - Web ソースの確認, 5-1
  - 追加, 4-1